

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 株式会社アメイジュ

研修事業の名称 湘南国際アカデミー介護職員初任者研修

特待生制度付き 16 日通信コース

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修課程全体 (130 時間) の構成と各研修科目 (10 科目) 相互の関連性や全体像を、あらかじめイメージできるようにする。 ・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を学習する。 ・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を学習する。 ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を学習する。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設などの多様な現場におけるサービスの内容や利用者像を通じて、介護職の仕事内容や働く現場の具体的なイメージをもつことができるようにする。 ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを学習する。 ・他職種とのチームアプローチの必要性や、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との具体的な連携方法を学習する。 <p>映像資料使用 (70 分)</p> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス・施設サービス・介護保険外サービスの長所・短所についてグループディスカッションを行い、サービスについての理解を深める。
合計	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 人権と尊厳を支える介護	5時間	1時間	4時間	2-① 1~15	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が有する基本的権利について概説し、介護を必要とする状態となっても、個人として尊重され、尊厳のある暮らしを営む権利を持つことを学習する。 ・人権と尊厳を守る上での基本的な価値である、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」を実感できる支援、プライバシーの保護などについて学習する。 ・ICFについて概説し、介護分野における意義や、活用方法などについて学習する。 ・利用者の生活の質を向上させるための、QOLの考え方について学習する。 ・人権を侵害する行為としての高齢者虐待と身体拘束について説明し、法的根拠としての高齢者虐待防止法に触れ、高齢者の養護者も支援することの重要性について学習する。 ・個人の権利を守る制度である、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業の概要について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を用いて、利用者の残存機能を活用することを、グループディスカッションを通じて気づかせ、そのことが利用者の自立支援や重度化の防止・遅延化にも資することを理解させる。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持の概要について学習する。 ・介護におけるICFの視点を学習する。 ・QOL(生活の質)の考え方、広げる視点を学習する。 ・ノーマライゼーションの考え方について学習する。 ・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法について学習する。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
② 自立に向けた介護	4 時間	0.5 時間	3.5 時間	2-② 1~10	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援が重度化防止に資することなど、その意義や必要性について概説し、自立と自律のとらえ方について学習する。 ・利用者の残存能力を活用するためには、意欲を高める支援の必要性があり、動機と欲求が不可欠であることを学習する。 ・利用者の個別性に基づいた、個別ケアの重要性について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例に基づいて、自立とは何かについてグループディスカッションをさせ、グループで共有し合い視野を広げる。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立のとらえ方、自立支援の意義について学習する。 ・個別性を踏まえたケアの必要性について学習する。 ・具体的事例を用いて、自立支援の視点、残存能力の活用、介護予防の考え方を学習する。
合計	9	1.5	7.5		

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	1時間	1時間	3-① 1~12	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスとの違いを学習する。 ・地域包括ケアの方向性について概説する。 ・重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢などについて学習する。 ・根拠に基づいた介護の必要性を学習する。 ・事業所内や多職種から成るチームケアの重要性について、具体例をもとに学習する。 ・医師、看護師、介護支援専門員、サービス提供責任者など異なる専門性を持つ多職種について理解できるよう学習する。 ・看護師等、保健・医療関係者とチームとなり利用者を支える意味について学習する。 ・チームケアにおける役割分担について概説し、互いの専門性を活用した効果的なサービスの提供について、具体例をもとに学習する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者主体の考え方について学習する。 ・自立した生活を支えるための支援姿勢について学習する。 ・根拠に基づいた介護の概略について学習する。 ・異なる専門性を持つ多職種について学習し、多職種連携とチームケアのあり方について学習する。
② 介護職の職業倫理	1時間	1時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義について概説し、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）について学習する。 ・介護職としての社会的責任を踏まえ、プライバシーの保護と尊重について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな介護職になりたいかをグループで話し合い、他グループと共有する。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
③ 介護における安全の確保 とリスクマネジメント	2時間	0.5 時間	1.5 時間	3-③ 1~6	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保の重要性を概説し、事故に結びつく要因を探り対応していく技術について学習する。 ・事故のリスクとハザードの視点から、事故予防としてのリスクマネジメントについて学習する。 ・発生した事故についての分析の手法と視点について学習する。 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告）の必要性と方法および、再発防止のための情報共有のあり方について学習する。 ・「感染」に対する正しい知識を学び、感染の原因と経路について、感染源の排除、感染経路の遮断の方法について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を用いて、どんな危険があるかをグループで考え、どうすれば事故を予防出来るか話し合い、他グループと共有する。（介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応せず、連携することが重要であると実感できるように促す。） <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職として利用者の安全を確保することの重要性を学習する。 ・リスクマネジメントとその視点について学習する。 ・感染症対策、感染源および感染経路の遮断の概略について学習する。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
④ 介護職の安全	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	3-④ 1~3	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響してしまうことを学習する。 ・介護職に多くみられるこころの病気と、ストレスマネジメントについて学習する。 ・介護職に多くみられる腰痛と、予防に関する知識について学習する。 ・介護職自身の感染症対策の必要性和、手洗い・うがいを励行することの重要性および、手洗いの基本を説明しデモンストレーションする。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職自身の心身の健康管理の方法についてグループで話し合い、他グループと共有する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理の必要性の概略について学習する。
合計	6	3	3		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護保険制度	3 時間	0.5 時間	2.5 時間	4-① 1~13	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の創設の背景（ケアマネジメント手法の導入）と目的を踏まえ、現在までの動向（予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進など）について学習する。 ・仕組み基礎的理解として、保険制度としての基本的仕組みを概説し、給付の仕組み（介護給付とその種類、予防給付）、要介護認定の手順について学習する。 ・指定介護サービス事業者の指定について学習する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の基本理念について学習する。 ・介護保険制度の仕組みを学習する（保険者、被保険者、保険給付）。 ・要支援・要介護認定と、認定の流れについて学習する。 ・制度を支えるための財源、組織・団体の機能と役割として、財政負担の概要と行政機関、国保連の役割について学習する。
② 医療との連携とリハビリテーション	3 時間	1 時間	2 時間	4-② 1~10	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職と医療行為の実情と経過について学習する。 ・在宅及び施設における介護職と看護職の役割・連携について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職と介護職の専門性について考察しながら、どのように連携すれば利用者のためになるかについてグループで話し合い共有する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度の高い介護サービス利用者の増加を踏まえ、医療職と連携する事の重要性を学習する。 ・訪問看護について学習する。 ・リハビリテーションの理念、目的、考え方について理解する。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
③ 障害者自立支援制度および その他制度	3時間	0時間	3時間	4-③ 1~17	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念、ICF（国際生活機能分類）に基づくとらえ方、自立のとらえ方を通じて、障害者福祉制度の理念について学習する。 ・ 障害者自立支援制度について、介護給付、訓練等給付、地域生活支援事業など、給付について学習し、申請から支給決定までの流れについて学習する。 ・ 個人の権利を守る制度として、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について学習する。
合計	9	1.5	7.5		

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護におけるコミュニケーション	3 時間	2 時間	1 時間	5-① 1~7	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について学習する。 ・言語的コミュニケーションの特徴および、非言語的コミュニケーションの特徴について学習する。 ・傾聴、共感、受容などのコミュニケーションの技法や道具を用いた言語的コミュニケーションの技法について学習する。 ・利用者の思いを把握すること、意欲低下の要因を考えること、利用者の感情に共感することなどの、利用者とのコミュニケーションの実際について学習する。 ・家族の心理的理解を踏まえ、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し避難することがないように対応することの大切さなど、家族とのコミュニケーションの実際について学習する。 ・利用者、家族の思いを踏まえ、アセスメントの手法と、ニーズとデマンドとの違いについて学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例（認知症など）を用いて、利用者や家族が抱きやすい葛藤や介護における相談援助技術の重要性をグループで話し合い、介護職としてもつべき視点を分かち合う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義や機能について学習する。 ・コミュニケーションを図る上での基本的な原則である、共感や受容の原則について学習する。 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際を学習する（視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症や認知症に応じたコミュニケーション技術）。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
② 介護におけるチームの コミュニケーション	3 時間	1 時間	2 時間	5-② 1~9	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録について学習する。 ・ヒヤリハット報告書の意義と重要性、使用方法について学習する。 ・記録をする際の、5W1H について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有を行う場として事例を挙げコミュニケーションの実際をグループワークで検討する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義と種類について学習する。 ・報告、連絡、相談の留意点を学習する。 ・介護における会議の意義と、介護職として役割を認識する場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）の必要性について学習する。 ・ケアカンファレンス、サービス担当者会議の意義と重要性について学習する。
合計	6	3	3		

6 老化の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3 時間	2 時間	1 時間	6-① 1~5	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について、防衛反応（反射）の変化、喪失体験などを踏まえて学習する。 ・老化に伴う、身体的機能の変化と日常生活への影響について学習する。 ・咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化など、生理的側面の知識について学習する。 ・精神機能の変化と日常生活への影響について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで老化について社会的、身体的、精神的、知的側面から話し合い、老化に伴う変化を理解することの重要性と継続的に学ぶ必要性への気づきを促す（例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等）。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化には個人差が大きいことを学習する。 ・老化に伴う、身体的・生理的機能の変化について学習する。
② 高齢者と健康	3 時間	1 時間	2 時間	6-② 1~7	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛など、高齢者の疾病と生活上の留意点について学習する。 ・循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）とその危険因子について学習する。 ・老年期うつ病の症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが前面に出るなど）や、うつ病性仮性認知症について学習する。 ・誤嚥性肺炎、感染症など高齢者に多い病気と、小さな変化に気づく視点について学習する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折、関節痛、便秘・下痢など的高齢者に多い疾病について学習する。 ・誤嚥とその留意点について学習する。 ・高齢者に多くみられる、循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）や、パーキンソン病、肺炎について学習する。
合計	6	3	3		

7 認知症の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	7-① 1~3	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念について学習する（パーソンセンタードケア）。 ・認知症ケアの視点について学習する（できることに着目する視点）。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念を学習する。 ・認知症ケアの視点を学習する。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	0.5 時間	1.5 時間	7-② 1~8	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の原因疾患とその病態について学習する。 ・原因疾患別のケアのポイントについて学習する。 ・認知症の人の健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）について学習する。 ・認知症の治療、薬物療法、認知症に使用される薬について学習する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念（認知症の定義、せん妄の症状など）について学習する。 ・認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイントを学習する。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	1 時間	1 時間	7-③ 1~4	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状および行動・心理症状（BPSD）について学習する。 ・不適切なケアと、生活環境の中で改善を図る視点について学習する。 ・認知症の利用者への対応を学習する。 <p>（失敗しないような状況をつくる、コミュニケーションの大切さ、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持を推察する、認知症の進行に合わせたケア）</p> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方への接し方について課題を出し、グループで話し合い、他のグループと意見を共有し、介護職として認知症を理解することの重要性への気づきを促す。 ・認知症の利用者の心理・行動の実際を実感できるよう事例で示し、グループで話し合い、他グループと意見を共有する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の利用者への対応の仕方を学習する（本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、相手の表情などから気持ちを洞察する）。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
④ 家族への支援	1 時間	1 時間	0 時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の受容過程について概説し、プロセスに応じた援助について学習する。 ・ 家族の介護負担を軽減するための社会資源(レスパイトケア)について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の利用者を介護する家族についての具体的な事例を用いて、家族の抱える思いや葛藤などをグループで話し合い、理解を深める。
合計	6	3	3		

8 障害の理解 (3時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 障害の基礎的理解	1時間	1時間	0時間		《講義内容》 ・障害の概念と ICF について学習する (ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方)。 ・障害者福祉の基本理念を学習する (ノーマライゼーションの概念)。 《演習》 ・グループで「自分が障害を持った時の心理」について考え他のグループと意見を共有する。
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	0.5時間	0.5時間	8-② 1~6	《講義内容》 ・身体障害 (視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害) について学習する。 ・知的障害について学習する。 ・精神障害 (高次脳機能障害・発達障害 (広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害など)・統合失調症・気分 (感情障害)・依存症など) について学習する。 ・その他の心身の機能障害を学習する。 《添削課題出題ポイント》 ・知的障害について学習する。 ・精神障害について学習する。(統合失調症・気分 (感情障害)・依存症、発達障害 (広汎性発達障害))
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	0.5時間	0.5時間	8-③ 1~2	《講義内容》 ・家族が障害を理解し、受容するための支援について学習する。 ・介護負担の軽減の方法について学習する。 《添削課題出題ポイント》 ・家族のとらえ方および支援 (レスパイトサービス) について学習する。
合計	3	2	1		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	① 介護の基本的な考え方	4 時間	1 時間	3 時間	9-① 1~10	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護（ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除）の必要性について学習する。 ・根拠（法的・科学的）に基づく介護の必要性について学習する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護（ICF の視点）を学習する。 ・根拠（法的・科学的）に基づく介護を学習する。
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	2 時間	2 時間	9-② 1~11	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識について学習する。 ・感情と意欲の基礎知識について学習する。 ・自己概念と生きがいについて学習する。 ・老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因について学習する。 ・こころの持ち方が行動に与える影響について学習する。 ・からだの状態がこころに与える影響について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで老化や障害を受容する過程について話し合いグループ間で共有し、視野を広げる。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがいについて学習する。 ・老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因について学習する。 	

	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
基本知識の学習	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	2時間	2時間	9-③ 1~10	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について学習する。 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用について学習する。 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識について学習する。 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識について学習する。 ・こころとからだを一体的に捉える視点について学習する。 ・利用者の日常生活の状態、様子を把握する事の重要性、普段との違いに気づく視点について学習する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の基礎知識を理解について学習する。 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用について学習する。 ・中枢神経系と体性神経、自律神経、内部器官に関する基礎知識について学習する。
生活支援技術の講義・演習	④ 生活と家事	6時間	3時間	3時間	9-④ 1~11	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を継続していくための家事の重要性について学習する。 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援としてのあり方（生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観）について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで家事に対するそれぞれの価値観を話し合い、家事に支援が必要な人も自分達と同じように個別の生活や家事があることへの気づきを促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における家事援助のあり方についてのとらえ方や、法的な位置づけについて学習する。 ・家事の基礎的知識、生活支援について学習する。

生活支援技術の講義・演習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	⑤ 快適な居住環境と介護	3時間	3時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内に多い事故について概説し、快適な居住環境に関する基礎知識について学習する。 ・高齢者・障害者に合わせた住居環境の整備の必要性や留意点について概説し、バリアフリーや住宅改修の制度について学習する。 ・障害の状態・生活環境に合わせた選別・使用方法・留意点について概説し、福祉用具貸与・購入の制度について学習する。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内や施設において、どのような場所やどのような時に事故が起こりやすいのか、また、それを防ぐにはどのような配慮が必要なのかを具体的な図や絵を用いてグループで話し合い、他グループと共有する。
⑥ 整容に関連したことからからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について学習する（身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果）。 <p>《演習内容》</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示や根拠に基づいて部分的な整容の介護の演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 部分清拭(顔拭き)の介護 2 衣服の着脱(一部介助・片麻痺)の介護 <ol style="list-style-type: none"> ①前開きの上衣の着脱 ②かぶりの上衣の着脱 ③ズボンの着脱 3 浴衣の着脱(一部介助・片麻痺)の介護 	

生活支援技術の講義・演習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12 時間	12 時間	0 時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残存能力の活用・自立支援、ボディメカニクスの基本原理、利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、重心・重力の動きの理解などの移動・移乗に関する基礎知識について学習する。 ・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法を理解する。 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因と支援方法について学習する。 ・移動行為と社会参加の留意点について学習する。 ・褥瘡予防について学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて移動・移乗の介護の演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ボディメカニクスの実践 2 立位の介護 3 ベッド上での体位変換の介護 <ol style="list-style-type: none"> ①側臥位への体位変換 ②ベッド上での水平・垂直移動 ③仰臥位→長座位→端座位への移動 4 移乗介助の具体的な方法の介護 <ol style="list-style-type: none"> ①一部介助でのベッド・車いす間の移乗 ②全面介助でのベッド・車いす間の移乗 5 移動介助の具体的な方法の介護 <ol style="list-style-type: none"> ①半身麻痺の利用者の杖歩行 ②車いす移動 ③視覚障害者の歩行

生活支援技術の講義・演習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5 時間	5 時間	0 時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に関する基礎知識（食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識）について学習する。 ・ 食事に関する身体的な理解（低栄養・脱水の弊害、咀嚼・嚥下のメカニズム）について学習する。 ・ 食事に関する心理的な理解（空腹感、満腹感、好み）について学習する。 ・ 食事に関する環境の理解（食事の時間・場所等、食事の姿勢）について学習する。 ・ 食事に関する福祉用具の活用と介助方法について学習する。 ・ 楽しい食事を阻害するこころとからだの要因と支援方法について学習する。 ・ 食事と社会参加の留意点と支援について学習する。 ・ 誤嚥性肺炎の予防の視点と、口腔ケアの重要性、方法について学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて食事の介護の演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食事の介護 2 飲水の介護 3 口腔ケアの介護

生活支援技術の講義・演習	⑨ 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する基礎知識（入浴・清潔保持の意義、体調確認の視点、羞恥心や遠慮への配慮など）について学習する。 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）について学習する。 ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法と留意点について学習する。 ・臥床状態での陰部洗浄の方法と留意点について学習する。 ・足浴・手浴・洗髪の方法と留意点について学習する。 ・入浴用具、整容用具の種類や活用方法について学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて入浴の介護の演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入浴の介護（全身浴・半身浴と浴槽への出入り） 2 足浴の介護 3 洗髪の介護（臥床状態での介護） 4 全身清拭の介護
	⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する身体的（生理的）側面について学習する。 ・排泄に関する心理的側面（プライド・羞恥心、プライバシーの確保、心理的負担・尊厳や生きる意欲との関連）について学習する。 ・排泄に関する社会的側面（排泄障害が日常生活に及ぼす影響、おむつ使用の弊害）について学習する。 ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法について学習する。 ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫、腹部マッサージ）について学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて排泄の介護の演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 おむつ交換(臥床状態での陰部清浄含む) (尿器、差し込み便器介助はデモのみ実施) 2 一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 <ol style="list-style-type: none"> ① ポータブルトイレ介助 3 全面介助での車いす・洋式トイレ（ポータブルトイレ）間の移乗

生活支援技術の講義・演習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	4時間	0時間		
⑫ 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	4時間	2時間	2時間	9-⑫ 1~9		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識について概説し終末期ケアについて学習する。 ・終末期におけるからだのしくみ（生から死への過程）について学習する。 ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）について学習する。 ・終末期におけるところのしくみ（「死」に向き合うところの理解）について学習する。 ・臨終が近づいたときの兆候と介護のあり方について概説し、苦痛の少ない死への支援の方法、他職種間の情報共有の必要性について学習する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期における変化の特徴を学習する。 ・死を受容するまでのプロセスを学習する。 ・終末期における介護従事者の基本的態度や介護のポイントについて学習する。 <p>《演習内容》</p> <p>グループで「終末期ケアにおいて大切にしたいこと」について考え、他のグループと意見を共有する。</p>

生活支援技術演習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	⑬ 介護過程の基礎的理解	5 時間	《講義内容》 ・介護過程の目的・意義・展開を学習する。 ・介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法を学習する。 《演習内容》 ・具体的な事例をもとに、個別支援計画書を作成する
⑭ 総合生活支援技術演習	6 時間	《講義内容》 ・高齢者(要支援 2 程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から 2 事例を提示し、⑬の授業を復習しながら、利用者の心身の状況に合わせた介護の考え方について説明する。 《演習》 ・こころとからだの力が発揮できない要因の分析 (アセスメント) →適切な支援技術の検討 (計画立案) →支援技術演習 (実施) →支援技術の課題 (評価) の一連の流れをグループごとに実施し、フィードバックをする。 ・上記を 1 事例あたり 3 時間程度で、2 事例実施する。	
	合計	75	

10 振り返り (4 時間)			
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法	
① 振り返り	3 時間	《講義内容》 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを再確認する。 ・根拠に基づく介護についての要点を再確認する(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)。 《演習》 ・グループごとに研修前に描いていた介護のイメージと、研修を通じた介護のイメージの変化について話し合い、その変化の理由を考え、学習することの必要性の理解を促す。	
② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1 時間	《講義内容》 ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例 (Off-JT、OJT) を紹介しながら、就業への備えについて説明する。 ・介護職員のキャリアパスについて概説し、継続的に学習すること重要性について説明する。	
	合計	4	
全カリキュラム合計時間		130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること